

“今週の国際宇宙ステーション(ISS)”

※特に断りの無い限り日付は日本時間です。

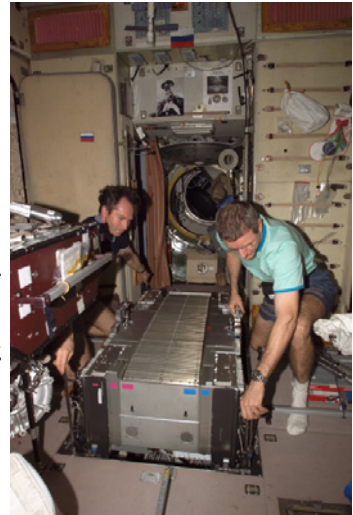
- ☆最初のISS構成要素打上げから2650日経過しました
- ☆第12次長期滞在クルーのISS滞在は142日経過しました
- ☆ISS動向

第12次長期滞在クルーのウィリアム・マッカーサーとバレー・トカレフ両宇宙飛行士は、半年に1度のトレッドミルのオーバーホールを行いました。また、ISS初の「キャンプ生活」の準備を進めました。

トレッドミルには制振機構があり、クルーが運動をしてもISS本体に振動が伝わらないような仕掛けになっています。ふたりは、数日かけて摩耗した部品交換や検査を行いました。

また今週は、将来の船外活動の準備時間を短くするために約0.7気圧に減圧された「クエスト」(エアロック)の中で一晩過ごす手順試験を行います。これをテントでの野営に因んで、キャンプ生活と呼んでいます。低い気圧の中で一晩を過ごすことで、血中に溶けている窒素を早く体外に追い出すことができ、船外活動時に減圧症を予防することができます。

このキャンプ生活に備えて、マッカーサー宇宙飛行士は空気の組成を計測する装置の故障した部品を交換しました。



トレッドミルのオーバーホールを行うマッカーサーとトカレフ両宇宙飛行士

“スペースシャトル最新状況”

- ☆STS-121のクルーがケネディ宇宙センターを訪れました。

スペースシャトル・ディスカバリー号(STS-121)のクルーが、クルー・イクイップメント・インタフェース・テスト(CEIT)* のために3日間にわたり、ケネディ宇宙センターを訪問しました。STS-121は2006年5月以降の打上げを目指しています。

* CEITとは、軌道上で使用する機器の使い勝手確認及び機器に慣れるために、その機器を実際に使用する宇宙飛行士が自ら確認する試験です。



左からマイケル・フォッサム、リサ・ノワク、ステファニー・ウィルソン、マーク・ケリー宇宙飛行士



翼の裏側を見るウィルソン(左)とノワク(中央)両宇宙飛行士



翼前縁を見るフォッサム(左)、ケリー(中)、ノワク(右)宇宙飛行士



船外用デジタル一眼レフカメラを持つフォッサム宇宙飛行士



外観の確認をするウィルソン(左)とケリー(右)両宇宙飛行士



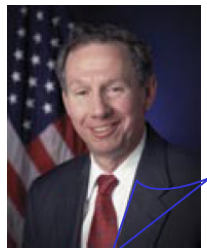
外観の確認をするピアース・セラーズ(左)とフォッサム(右)両宇宙飛行士



ディスカバリー号の整備クルーとSTS-121クルーの集合写真

☆米国2007年度予算要求公聴会

米議会下院の科学委員会は、2007年度NASA予算に関する公聴会を2月17日に開催しました。グリフィン長官は、次回スペースシャトルの打上げは5月を目標としていること、今年後半からISSの組み立てを再開すること、2010年のスペースシャトル退役から新型有人探査機(Crew Exploration Vehicle: CEV)導入までの空白期間を出来る限り少なくすることが最優先課題であると述べ、CEV開発予算の増加に理解を求めました。



問い合わせ先: 宇宙航空研究開発機構 宇宙ステーション・きぼう広報・情報センター

ホームページ <http://iss.sfo.jaxa.jp/>

Eメール kibo-pao@jaxa.jp

ウィークリーニュースメーリングサービス登録 <http://iss.sfo.jaxa.jp/weekly/index.html>

※「ISS・きぼうウィークリーニュース」に掲載された記事を転載する場合、本ウィークリーニュースから転載した旨を記述ください。